

経営比較分析表（平成29年度決算）

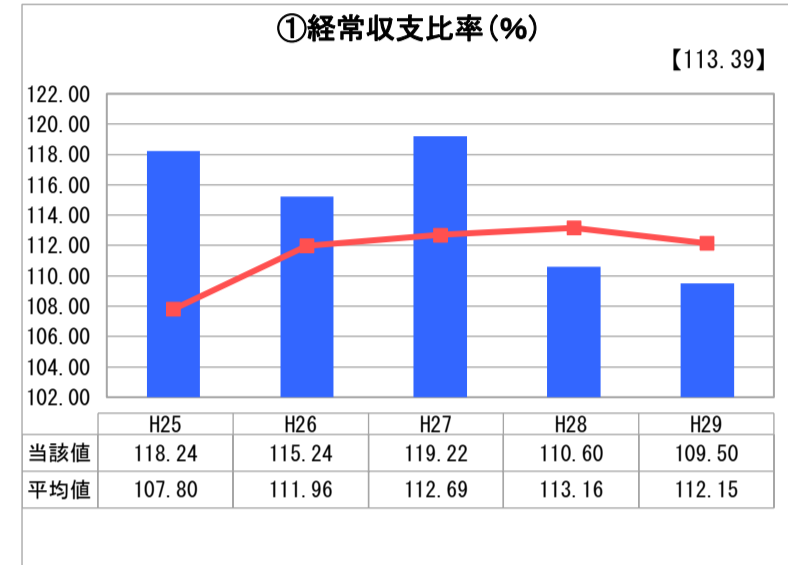
福井県 敦賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.47	97.86	1,782	

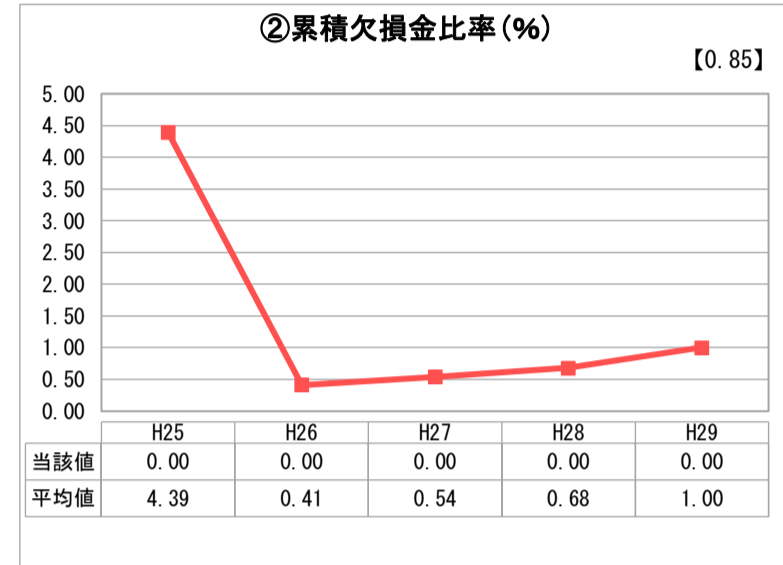
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
66,558	251.41	264.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
64,675	36.92	1,751.76

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

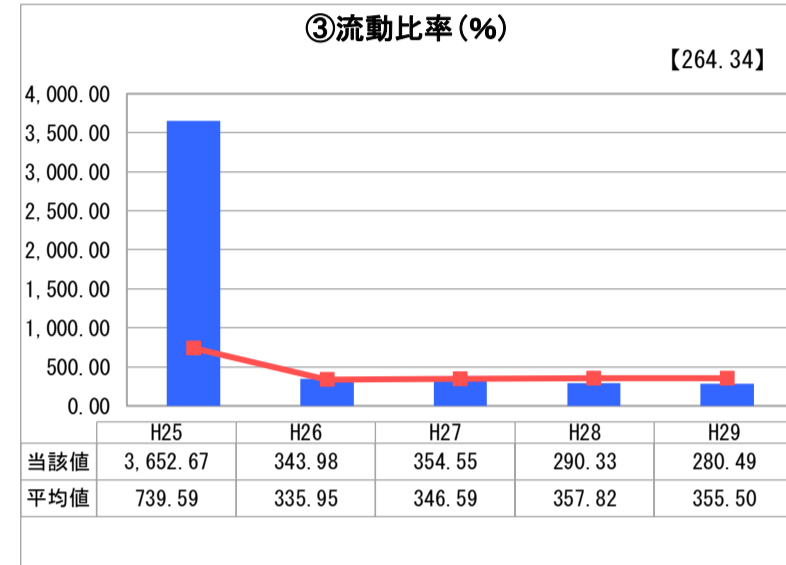
1. 経営の健全性・効率性



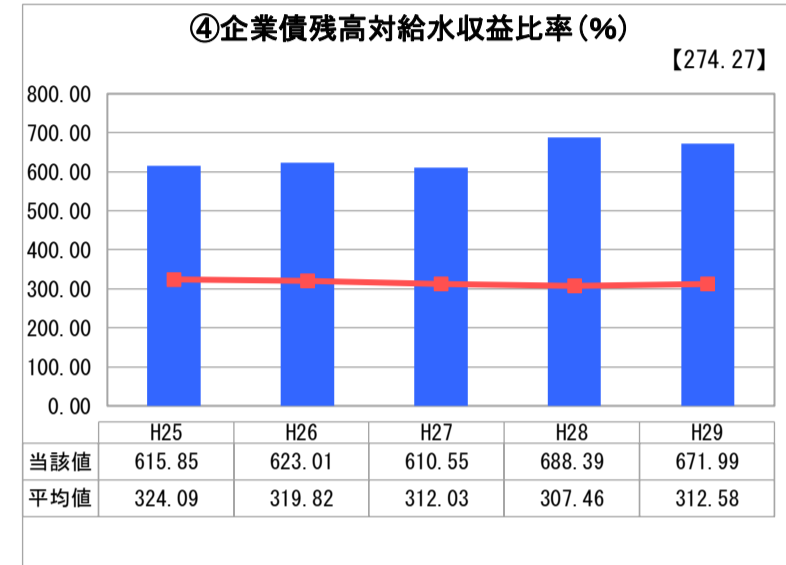
「経常損益」



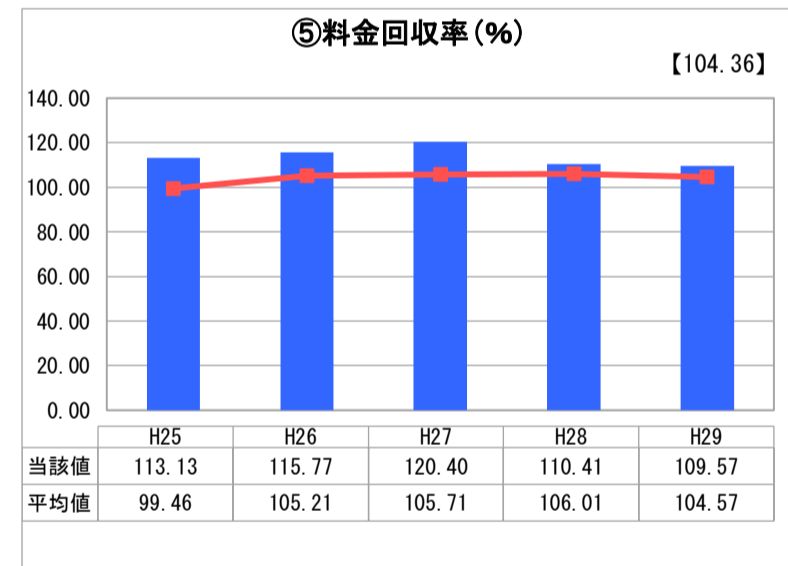
「累積欠損」



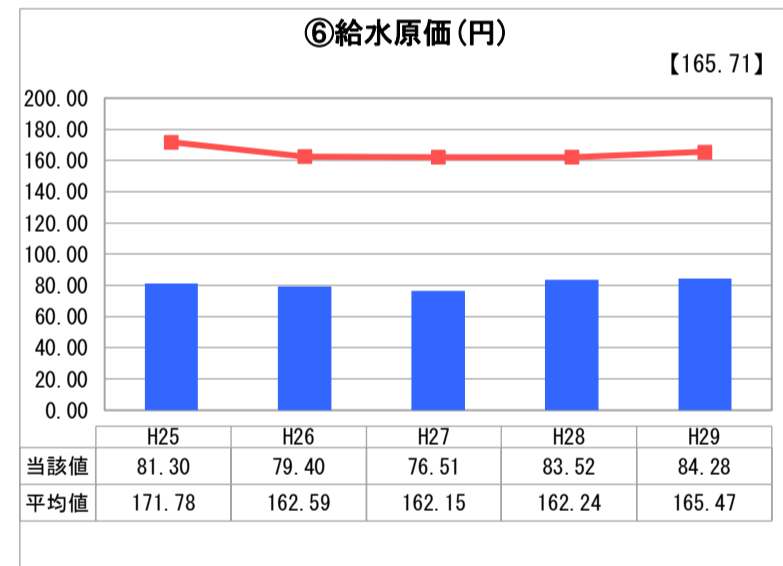
「支払能力」



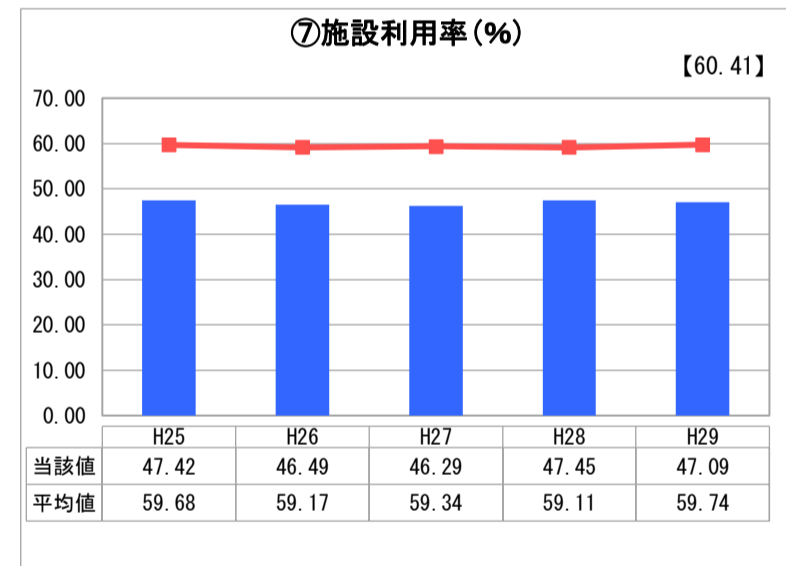
「債務残高」



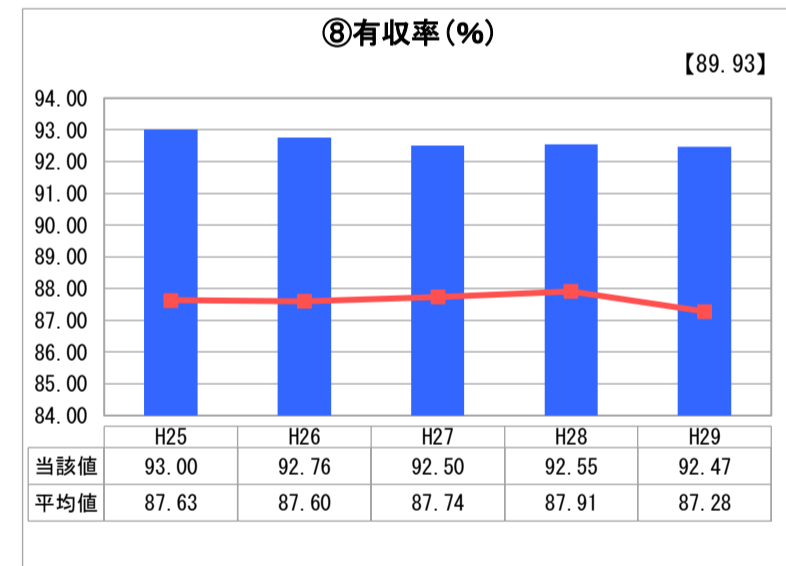
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

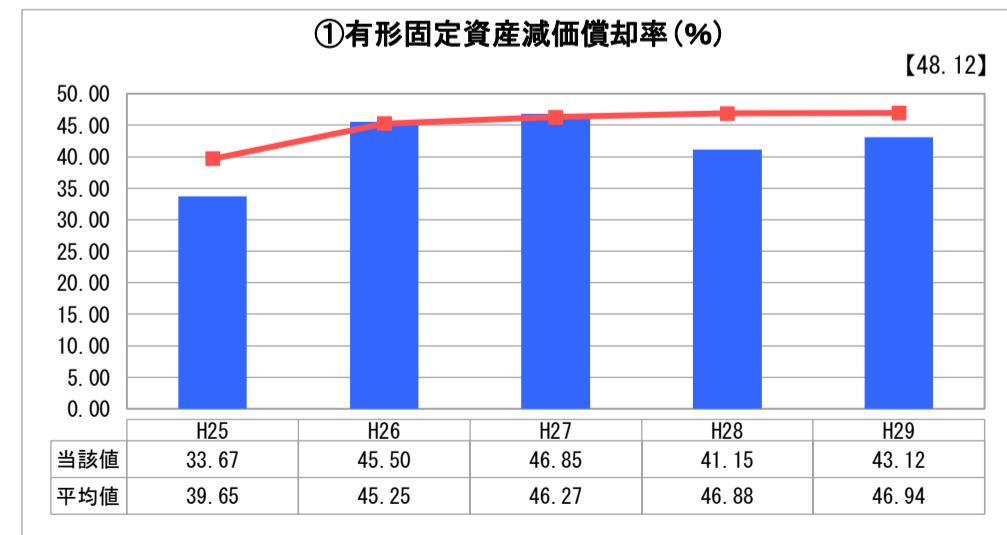


「施設の効率性」

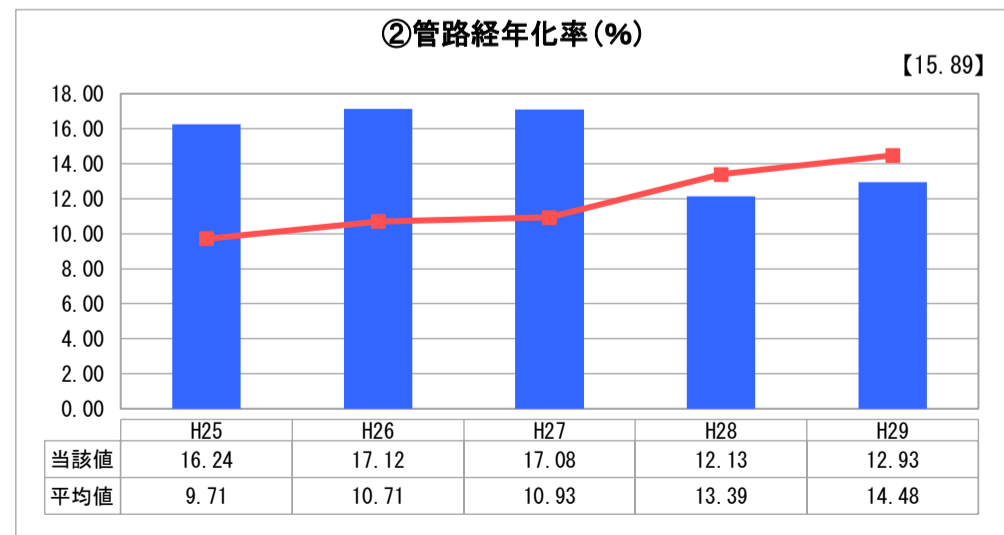


「供給した配水量の効率性」

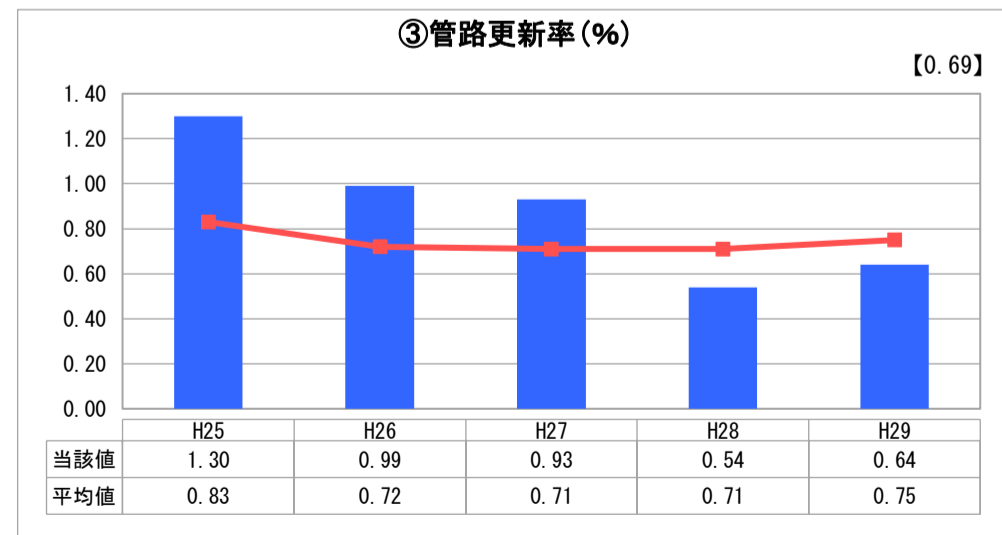
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超え、経営状況は健全な水準にあるといえるが、類似団体平均値、全国平均ともに下回っており、更なる費用削減や財源の確保を行っていく必要がある。

② 累積欠損金は発生しておらず、健全な経営状況である。

③ 流動比率は、類似団体平均値より下回っているが、100%を超え、全国平均より上回っており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない状況である。

④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値、全国平均を上回っており、資金調達が企業債に依存している状態であるため、借入額の抑制等の資金調達の在り方を検討する必要がある。

⑤ 料金回収率は、100%を超え、類似団体平均値、全国平均ともに上回っており、給水に係る費用は給水収益で賄うことができている状況である。

⑥ 給水原価は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っている。これは、水源がほぼ地下水で、浄水方法も「塩素消毒のみ」が多いため、費用を抑えることができているからである。

⑦ 施設利用率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているため、今後の水需要動向によって施設規模の見直しを検討する必要がある。

⑧ 有収率は、類似団体平均値、全国平均ともに上回っている状況であるが、より一層の漏水防止対策を進め向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているが、より一層計画的に、施設更新を行っていききたい。

② 管路経年化率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているが、より計画的かつ効率的に管路更新を行っていききたい。

③ 管路更新率は、類似団体平均値、全国平均より下回っており、更新ペースが遅いため、計画的な管路更新を行っていく必要がある。

全体総括

累積欠損金がなく、経常収支比率、料金回収率ともに100%を超えており、経営に必要な経費を料金で賄うことができている健全な経営状況である。また、有形固定資産減価償却率、管路経年化率が平均より下回っている。

しかし、施設利用率が低く、企業債残高対給水収益比率も高い状況である。その中で、管路更新率が低く、施設や管の老朽化が進んでいる状況であるため、人口や水需要の動向を踏まえ、計画的に施設の規模の見直しを含めた更新を行うなど、効率的な経営を行う必要がある。

平成28年度に簡易水道事業を統合した影響について、今後も動向を注視していきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。